

令和7年10月18日（土）
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

●一王寺遺跡とは

- ・「史跡是川石器時代遺跡」（中居・堀田・一王寺）のひとつで、面積は約32万6千㎡あります。
- ・西側の丘陵を除き、三方を新井田川と旧沢地形（長田沢・寺ノ沢）に囲まれた標高約20～100mの台地に立地しています。
- ・台地南側を中心に、縄文時代前期から後期までの集落が広がっていることがわかっています。



遺跡の中心と考えられる台地南側の遺構分布を知るため、令和元年度から調査を行っています。

●令和7年度の調査成果

今回の調査では、遺構分布や当時の地形を確認するため、丘陵に近い北西側斜面と寺ノ沢に近い南東側斜面の未調査範囲の約7,600㎡を対象に調査を行っています。調査期間は7月1日～10月31日を予定しています。

①南側斜面の盛土遺構の広がり、埋まっているものを調査

これまでの調査で、寺ノ沢に近い南側斜面では、縄文土器や炭、焼土などを多量に含んだ土が厚く堆積する「盛土遺構」が広い範囲に広がっていることがわかっています。

今回の調査では、縄文時代前期頃の竪穴建物跡から縄文土器が密集した状態で出土しました。盛土遺構は、使われなくなった竪穴建物の窪地を埋めるように土器や炭、動物の骨などが多量に混じった土砂を廃棄していった結果、地形を変えてしまうほどの規模のものが形成されたと考えられます。

調査区南西側では、盛土遺構の下から縄文時代前期後葉頃と考えられる人骨が出土しました。残っていたのは下顎の左臼歯だけで、土



9トレンチ盛土遺構の土器（南から）

坑墓のような土の掘り込みも確認できませんでしたので、周囲の土などと一緒に動かされたものと考えられます。現在、人骨の年齢や性別などの分析を進めています。

②縄文時代前期後葉の竪穴建物跡を発見

南側斜面の盛土遺構の下から縄文時代前期後葉と考えられる竪穴建物跡が7棟みつかりました。そのうちの竪穴建物跡の一つからは、土器埋設炉（土器を地面に埋めて作られる炉）が合計14基みつかりました。古い炉を壊してつくりかえられているものもあり、珍しい事例です。

③縄文時代中期後葉の居住域

平場に使い調査区では、縄文時代中期後葉の竪穴建物跡が4棟みつかりました。北側に隣接する過去の調査区でも同時期の竪穴建物跡が確認されており、今回の調査により、居住域が南側に広がることがわかりました。



16トレンチの人骨（北西から）



16トレンチの土器埋設炉（南から）

●おわりに

今回までの調査から、一王寺遺跡の各時期の集落のようすや移り変わりが少しずつわかってきました。

- ・縄文時代前期中葉～後葉では、貝塚の周辺や南側斜面に竪穴建物が広がっており、斜面地などを利用した居住域がつくられたと考えられます。また、同じ場所に盛土遺構もつくられるようになります。
- ・縄文時代中期前葉～中葉では、台地の平場を中心に列状に竪穴建物が並ぶ居住域がつくられました。
- 盛土遺構は、南側斜面や貝塚の北側に広範囲につくられるようになります。
- ・縄文時代中期後葉では、台地の平場の東側に居住域や土坑群がつくられました。
- ・縄文時代後期初頭～前葉では、台地の平場の西側の広い範囲に竪穴建物や土坑、配石遺構などがつくられるようになります。この時期は、前期から中期のような盛土遺構は認められず、竪穴建物跡の窪地を捨て場として利用していたと考えられます。

縄文時代前期中葉～後葉（約 6000～5500 年前）



縄文時代中期前葉～中葉（約 5500～4800 年前）



縄文時代中期後葉（約 4800～4700 年前）



縄文時代後期初頭～前葉（約 4400～4100 年前）



縄文時代前期中葉～後葉

- ・貝塚や寺ノ沢付近の斜面地に竪穴建物
物が点在
- ・寺ノ沢側に大規模な盛土遺構が形成



縄文時代中期前葉～中葉

- ・竪穴建物が列状に分布
- ・盛土遺構の規模が拡大



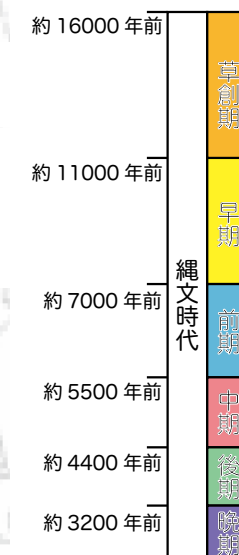
縄文時代中期後葉

- ・台地の東側平坦面に竪穴建物や土坑
が分布



縄文時代後期初頭～前半

- ・台地の斜面から平場に遺構が分布



※縄文時代は古い順から、草創期・
早期・前期・中期・後期・晩期
の6つの時期に区分されており、
それぞれの時期を前葉・中葉・
後葉、さらに、はじまりを初頭、
終わりを末葉に区切っています。

- 竪穴建物跡の範囲
- 盛土遺構・捨て場の範囲
- 土坑の範囲
- 配石遺構の範囲
- ★ 貝塚
- 今年度調査トレンチ
- 過年度調査トレンチ

一王寺遺跡の遺構の広がりに移り変わり（縄文時代前期～後期）